

五稜郭国有林における樹種転換事業の 取り組みについて

保安林とボランティア活動

五稜郭国有林（6151林班）は函館市の住宅街に位置し、林縁には民家や学校が隣接しており、大正10年（1921年）に風致保安林、平成7年（1995年）には保健保安林に指定され、歴史ある赤松並木の景観と保健休養の場として広く親しまれております。また、町内会や有志による植樹や清掃活動、社会貢献の森として林内整備など、ボランティアや森林づくりの活動の場として、地域と連携した取り組みを進めているところです。



【風致保健保安林】



【柏ヶ丘通沿い】



【清掃活動】



【草刈活動】

近隣への被害

近年、林内木（ヤチダモ）の成長に伴い、近隣への枯れ枝の飛来や日照不足、害虫発生といった弊害も多く見られるようになり、これまで、危険木を処理するなどの被害対策を講じてきましたが、

平成29年2月と平成30年2月には「い」小班、令和2年2月には「ろ」小班で、梢端部の切り落としや枝払いなどの手入れを行い、その後新たな枝葉の再生を促すといった林内整備を図ってきたところです。



【屋根より高い木】



【梢端部処理】

毛虫の大発生

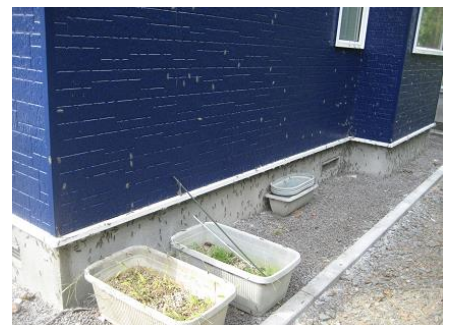
令和3年、アメリカシロヒトリの幼虫である毛虫が大量発生し、周辺への被害抑止と、林内木の食害防除を目的に、毛虫が付着する葉を除去するための枝切処理を、住宅と隣接する地帯を中心に実施しましたが、害虫発生を抑止することが出来ず、地域からの苦情や問い合わせが続く中、職員による駆除作業を行って対応していますが、被害を食い止める事が出来ないのが現状です。



【毛虫食害】



【毛虫大量発生】





【枝切作業】

【駆除作業】

このような状況を踏まえ、毛虫が付きやすいヤチダモを伐採し、害虫を寄せない苗木を植栽するといった、抜本的な林内整備が必要と考え、今回「樹種転換事業」を実施することで検討しました。

樹種転換事業

当該林分は「い」小班、昭和8年植栽の90年生ヤチダモ人工林で、面積0.92ha、haあたり本数400本となっており、施業方針は森林空間利用を目的とした育成複層林施業を基本としております。

今回検討した内容は、更新を前提とした伐採率30%以内の人工林択伐（主伐）を行い、その跡地に苗木を植栽し成長を促し、回帰を待って主伐更新を重ねていくといった、複層林施業を進めるもので、何十年もの歳月を掛け、健全な樹種転換を図っていく考えです。

複層形態は、下層植栽木の日照不足などによる被圧を懸念して帯状とし、現地は南北方向に長い林分であり、東西に民家・学校があることから、縦（南北）方向に伐採植栽する形を検討しました。（図面・上空写真参照）



【矢印側住宅沿いを伐採・植栽する】



【上空から見た
五稜郭国有林】

当面は、中央帯の上層林と周囲の下層帯の2層となり、これにより、住宅街とヤチダモ林との距離が保たれることになり、害虫被害の抑止が図られ、併せて健全な複層林へと導いていく構想です。

令和5年度中に伐採事業（立木販売）を実施する予定ですが、住宅街での作業ということで、人や車両の通行が著しく、道路幅も狭い、電線・水道施設が張り巡らされているなど、国有林野の山中とは違い、大型機械の使用や作業に制限が生じるなど、市街地林業について留意しなければなりません。

次年度以降は、植栽をはじめとした造林事業を進めていく構想で、下草刈り等の保育作業や虫害防除など、状況に応じた作業を臨機に実施する必要があると考え、引き続き地域と一体となった活動の場と併せて森林整備に取り組めます。

また、植栽木は景観や毛虫に強い樹種を考えておりますが、専門的知見による有識者からの助言を頂いて選定することとします。

「国民の森国有林」を肝に銘じ、時間を要しますが、皆様方のご理解を得ながら、保安林機能の維持と、地域と共生した健全な森林づくりに努力して参る所存です。



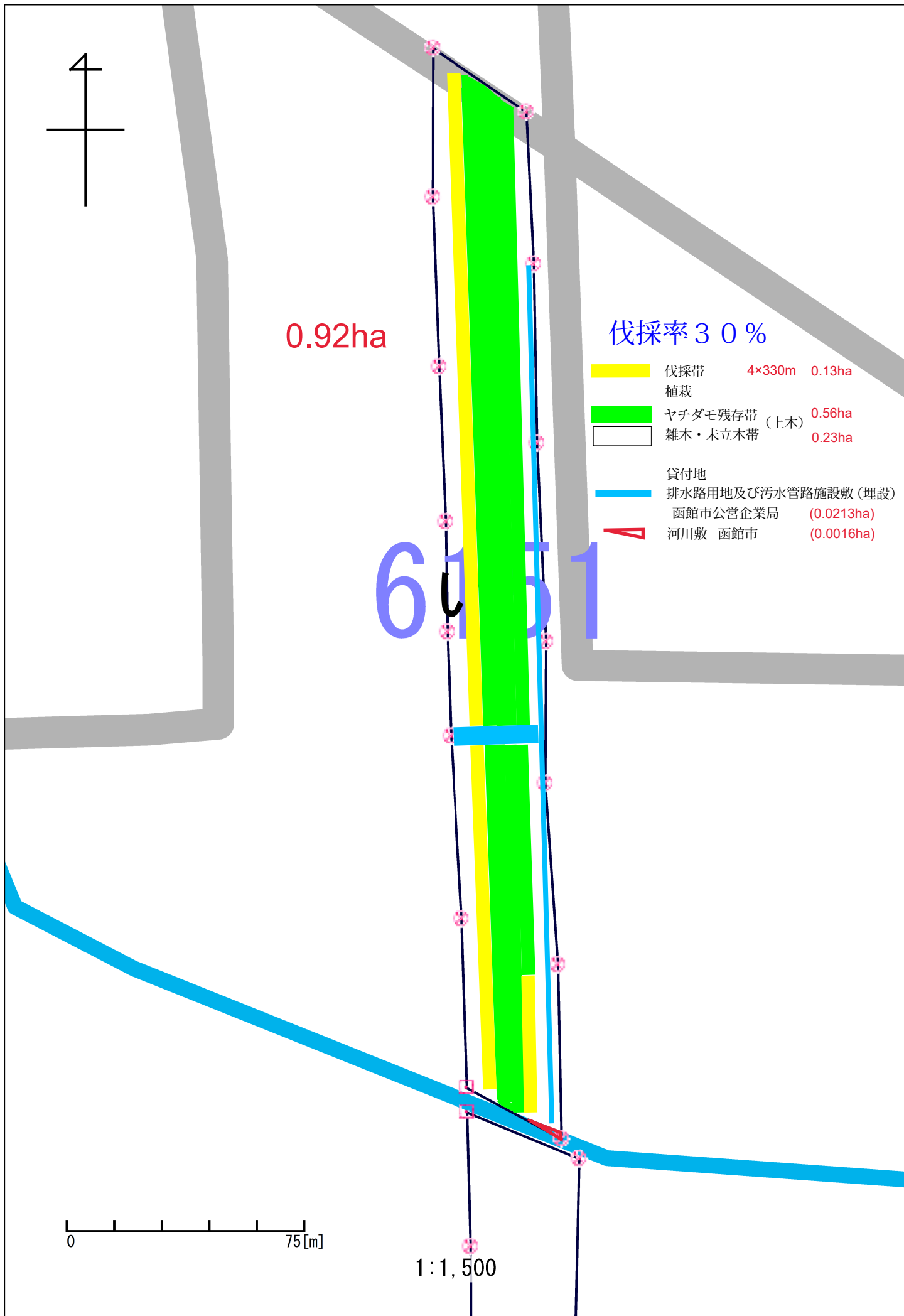
林野庁北海道森林管理局

檜山森林管理署

〒043-1112 北海道檜山郡厚沢部町緑町162-28

TEL 0139-64-3201

五稜郭国有林伐採植栽計画



五稜郭国有林伐採植栽計画 上空写真

黄色線が伐採植栽帯

